がん遺伝子バネル検査に関する説明（簡略版）

宮城県立がんセンター　がんゲノム医療センター　022-384-3151（代）

1. がん遺伝子バネル検査の目的

→がんの性質の理解と有効薬剤の探索、参加可能な治験の探索、将来の薬剤開発

1. がん遺伝子バネル検査の利点と限界

検査結果に基づく薬剤がみつかるのは、10～20％程度。ただし今後増える可能性がある

適した薬剤が当院では利用できない場合、国内で実施できる場合は紹介する。多くは東北大学病院で実施可能。

1. がん選伝子バネル検査の結果の説明（全部で２か月程度かかる）

結果は、がんゲノム情報管理センター経由で東北大で検討されてから伝えられる。

1. がん遺伝子バネル検査の費用

保険診療として実施され、徴収は2回に分かれる

1. 参考になるリンク：がんゲノム情報管理センター作成ビデオ（QRコード）

（がんゲノム情報管理センター：<https://www.ncc.go.jp/jp/c_cat/index_kan_jya.html>）

 

がん遺伝子パネル検査について（4分6秒）　遺伝的背景と「がん」の関わり（4分10秒）

 

がんゲノム情報管理センターについて（5分17秒）　検査の意思決定について（7分30秒）